

地域と時を紡ぐ人々

連綿と受け継がれる地域の伝統や芸能、自然などを次代に継承する方々を、広報たかやまではシリーズで紹介していきます。

第十章 受け継がれる妙技―からくり奉納―

を操り、2体の唐子人形と七福神の布袋を操ります。

デビューを果たした鍋島碧さん

(7)は長年、からくり奉納の総責任者「綾元」を務める鍋島勝雄さん(67)の孫。おはやしに合わせ唐子人形の頭を動かす役割をこなすため、10月3日から稽古を重ねていました。

江戸時代から続く絢爛豪華な高山祭。秋の八幡祭では11台の屋台で唯一からくり奉納が行われる布袋台に今年、小学生が12年ぶりにデビューしました。

からくり人形を操るのは綾方と呼ばれる9人の男性。36本の絹の綱

好天に恵まれた祭の2日間で4回の中から奉納を行った布袋台。唐子人形が巻物を飛び移ったり、布袋の肩に飛び乗ると、観客からは大きな拍手と歓声が起こりました。



鍋島 勝雄さんと碧さん



「うまく動かして良かったです。来年もがんばります」微笑む碧さんを温かく見つめる鍋島さんは「孫がうまくやつてくれて感無量。涙が出ました」と話しました。

同じく12年ぶりの出来事が布袋台にはもう一つあります。それは綾方全員の配置換えです。9人がほかの操作もこなせるようにするためです。

「稽古の最初は息が合わなかったが重ねるうちに揃っていった。本番では申し分ないからくり奉納ができた」と鍋島さん。からくりの妙技が受け継がれた時、布袋台は秋晴れの境内で一層の輝きを放っていました。

広報
市長だより
34

市制施行
78周年にあたり
高山市長 國島芳明

昭和11年11月1日に市制を施行し、今月で78年を迎えました。今日の高山市の発展がありますのも、先人の皆様方の並々ならぬご尽力の賜物であり、ふるさとを愛して止まない人々の熱き思いと行動の結実でありますことは言うに及びません。

高山を愛して「もっと元氣なまちにしたい」「もっと豊かなまちにしたい」と前向きに思われ、実際に行動される人々が現在もたくさんいます。その人々の行動は時として周りから奇異に映ることもあり、出る杭を打つかのごとく周りが足を引っ張ってしまうこともあろうかと思いますが、私は実際に行動に移された人々の背中を押して、みんなで応援していくことが市政の発展につながると考えております。

市民の皆様一人ひとりが手と手を取り合い、互いに励まし合って、がんばる人を一緒に応援する大きなうねりが、高山市をますます光り輝かせ、夢と希望と笑顔が満ちあふれる温かいまちになるものと確信しております。

市長室へようこそ

●11月の「市民と市長の面談日」は都合により開催いたしません。

なお、始業前の時間、市役所の市長室を「市民と市長の対話の場」として開放しています。お気軽にお越しください。

●開放時間

午前7時～8時30分まで

※出張や特別な行事がある場合は除きます。
※市ホームページで市長の週間スケジュールを公開しています。

市長室直通FAXもご利用ください
FAX☎32-7000

問合先 秘書課 ☎35-3130

ケーブルテレビの番組「ハイ、市長です」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.city.takayama.lg.jp/net-tv/index.html>